

5〜6年生の子どもへの伝道

有限会社エックティエルシステム 代表取締役
横浜都筑ニユータウンシヤペル会員

大村 信蔵



前号は小学1年生から4年生の子どもの生活面についてお話ししました。

今号は5・6年生の子どもの対応についてですが、5年生は小学校で中心的な役割を少しずつ始め、6年生は最高学年という自負が芽生えてきます。また中学1年生になると交通機関等の料金が大人料金になることもあって、個人差はありますが、しっかりとしようとする気持ちが出てきます。この頃から将来どんな職業に就きたいかとか、やりたいことはあるかとか話をしておくことは大切です。就きたい職業によっては、この時期から準備を始める方が良いでしょう。もちろん、ありません。

まずはこの時期に親が抱える悩みや心配事をいくつか列挙したいと思います。

中学受験をさせるかどうか

経済的にやりくりができる場合、親は子どもに中学受験をさせるか否か悩む時です。そのために小学3年生頃から子どもと関わり合っています。子どもの資質や性格を判断する必要があります。私立の良い点は、一芸に秀でている者を大切にすることです。高校卒業まで何とかしようと親身になってくれます。また、子どもの性

格を考えて中学受験をさせる方が良い場合もあります。子どもとよく話し合って中学受験を決めてほしいと思います。

子どもが救われるのは?

小学5、6年生になって、イエス・キリストを信じているかどうかはつきりわからない時、親としてはとても心配になります。十字架の贖いも自分の子どもに話してきましたが、5年生になっても信仰がはつきりしない子が我が家にもいました。

そして、ふたりを外に連れ出して「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った。ふたりは、「**主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます**」と言った。そして、彼とその家の者全部に主の言葉を語った。看守は、その夜時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。

(使徒 16章30〜33節)
赤字の箇所のみことばの約束を信じて、妻と

よく祈り求めていました。また、私たちが祈るだけでなく、子どもにもイエスが自分の罪からの救い主であるということがわかるように求めるよう、いろいろな場面で促した記憶があります。次第に本人も真剣に求める必要があることを感じ始め、祈り求め、また新約聖書を少しずつ読むようになりました。小学5年生の時、夏のバイブルキャンプに参加し、イエスの十字架がはつきりわかって帰ってきました。まさしく左記のみことばの通りです。

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

(エペソ 2章8節)

子どもの洗礼

幼児洗礼は別として、日本の教会において、小学生までの子どもが受洗したいと言っても、洗礼を受ける教会と授けない教会があります。その教会の考え方があるので、そのことについては触れませんが、私が子どもの洗礼を了解する一つの基準を述べたいと思います。

ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。

(マタイ 10章32節)

イエスは人の前で、「私はイエス・キリストを信じています」とはつきり言えますかと、私たちに聞いただしています。この「人の前」とは、学校であり、生活している地域であり、前後の文章を読みますと、究極的には自分を迫害する